

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

## 寒川町立寒川小学校

研究テーマ：やりたい気持ちがあふれる子どもの育成  
～「はてな・なるほど・だったら」の授業づくりを通して～

### 1 実践の目的

5月下旬にアンケートを行った。今回のアンケートでは算数が好きと答えている児童は全校の約8割を占めている。しかし、算数が好きだけど「間違えることが嫌だ」「みんなの前で発表することが恥ずかしい」など、自分の考えを伝えることが苦手な児童もいる。こうした現状を打破するために、大きく2つのことに取り組んできた。

- ①子どもたち全員が発言しやすい環境を学校全体でつくるための指針「聴こう山」を作り、子どもたちの聞く姿勢の基盤作りを行うことにした。
- ②昨年度に引き続き、子どもたちの「やりたい！」という気持ちを育むために、「はてな？なるほど！だったら！？」の授業づくりを行っている。今年度は楽しい気持ち連鎖するように、新たな発問「だったら！？」が子どもたちから生まれるようなしかけを教師が授業計画に意図的に組み込んでつくることを中心に研究の目的としている。

### 2 実践の内容

＜講師招聘の内容＞

明星大学客員教授兼明星小学校長の細水保宏先生を招聘し、講演会を開催した。以下は講演会の内容である。

○算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう授業づくりを行うためには、次

のことを教師が意識することが大切。

- ①考えたくなる、表現したくなる場を創る
- ②考えてよかった、表現してよかったと感じる場を創る
- ③相手を意識して表現する力を育てる
- ④教師自身が算数・数学を楽しむ心を持って授業する

＜研究協議の内容＞

各学年1回、細水先生を招いて授業研究を行った。グループ協議は、「KJ法」を行い、授業の成果や課題についてグループニングや内容の整理をし、話し合いを進めてい



った。グループ協議では、新たな問いが生まれるための発問は有効であったか、時間配分はどうだったかを中心に進められ



た。協議後、細水先生から今回の授業についての指導・講評をいただいた。授業を終えた後、子どもの新たな発問が子どもたちから自然に生まれるためには、日常に溢れている数学的な事象と授業がつながっていることに興味を持たせ、本単元につなが

るように知識やヒントを意図的にばらまいておくことも必要であることに気づかされた。

### 3 実践の成果

＜学年の成果＞

- ・教室掲示など、日常から算数につなげているのがよかった。
- ・数学的な見方・考え方を意識させるためにキャラクターがよかった。
- ・やりたい気持ちを引き出すための「はてな？」の仕掛けがよかった（容器の比較、手作り算数ドラマ、先生の日常生活からなど）。
- ・間違いを恐れずに全員が自分の考えをもち、授業に参加する様子が見られた。
- ・「ならず」ことの意味を説明するために、タブレットを用いて自分の考えをまとめることができていた。
- ・ペアで伝え合う→交流という流れが児童に染みついている。普段の学習の充実度が伺えた。



みかたん

＜全体の成果＞

- ①『はてな』『なるほど』『だったら』を中心とした授業が全学年に定着してきた。今年度は特に「だったら」に重点を置いて授業づくりや教材研究に取り組み、児童が「やりたい！」と思える発問や場面・課題の設定に力を注ぐことができた。その結果、児童の意欲向上を感じることができた。
- ②児童の基礎的・基本的な知識・技能が定着してきた。全校で「朝算」や「eライブラリ」を活用して既習内容の復習に取り組んできたことで、基礎力の向上が見られ、スムーズに課題解決に取り組むことがで

きるようになってきた。また、「みかたん」を活用し、課題解決の手掛かりになる見方・考え方を全体で共有したことで、自力解決を促し、確かな理解へとつなげることができた。

- ③言語活動が充実し、考える力の向上が見られた。「話し方」や「聞き方」について全校で統一した目標を設定して指導してきたことで、児童が安心して発言できるようになり、活発な意見交流を行うことができた。その結果、多様な考えに触れ、それぞれの考えの共通点や相違点、妥当性等について深く考える姿勢を養うことができた。

### 4 今後の展開

- ①今年度は、「だったら」に重点を置くあまり、「なるほど」の共通理解が曖昧になってしまったり、教師が提示する「だったら」が児童の思考の流れに沿わなかったりする場面が見られた。「なるほど」を全体でしっかり押さえ、児童の自然な思考に沿った「だったら」へつなげていきたい。また、児童から出た「だったら」を単元の最後に扱うなど、より柔軟な姿勢で指導にあたることも考えられる。
- ②自分の考えを書く場としてのノートの書き方指導や、数学的な見方・考え方の見方を養うための「みかたん」を活用する場面を全校で共有し、本研究の授業スタイルを確立させていきたい。
- ③研究授業だけではなく、日頃からお互いの授業を参観し合ったり、「たてわり部会」や「先生、スタイルの会」などで各々がもつ知識や技術を共有・伝承したりすることで、学校全体の授業力向上を目指していきたい。